

2022年度（2023年3月期） 第3四半期連結決算概要および通期見通し

1.2022年度 第3四半期 決算実績 <対前期>

(1)決算実績のポイント

増収増益：増収は2期連続、増益は3期連続（純利益ベース）

都市ガス販売量	△47百万m ³	：巣ごもり需要剥落影響等による家庭用需要減等
電力販売量	+5,379百万kWh	：小売件数増および卸供給先の需要増による販売量増
売上高	+8,969億円	：原料費調整に伴う単価増などによる「エネルギー・ソリューション」の売上高増等
営業費用	+7,146億円	：原油価格上昇影響などによる「エネルギー・ソリューション」の原材料費増等
営業外損益	△61億円	：デリバティブ差損益 △49億円等
特別損益	+10億円	：（当期）投資有価証券売却益 +37億円、事業譲渡益+35億円 投資有価証券評価損 △25億円 ：（前期）投資有価証券売却益 +36億円

(注)2022年4月1日に当社のガス導管事業等を当社の100%子会社である東京ガスネットワーク株式会社に承継させる吸収分割を行ったことにより、当社はガス事業会計規則に定める一般ガス導管事業者には該当しなくなったため、検針日基準から引渡基準へ会計方針を変更しており、2021年度に係る各数値は遡及適用後の数値を記載しています。

<2022年12月末現在連結会社数：連結子会社 101社、持分法適用関連会社15社> (単位:億円)

決算実績表	2022年度3Q	2021年度3Q	増減	%
売上高 (歴代1位)	23,001	14,032	8,969	63.9
営業費用	20,645	13,499	7,146	52.9
営業利益 (歴代1位)	2,356	533	1,823	341.5
経常利益 (歴代1位)	2,382	621	1,761	283.6
親会社株主に帰属する当期純利益 (歴代1位)	1,680	460	1,220	264.7

<参考値> (符号は利益に対する影響を示す)

スライド差(※)	924	△272	1,196
年金数理差異償却額影響	△32	82	△114

(※)原料費調整制度において原油価格の上昇(下落)に伴う原材料費の増加(減少)が売上高の増加(減少)に先行することによる一時的な利益差異。

経済フレーム	2022年度3Q	2021年度3Q	増減
為替レート(¥/\$)	136.50	111.14	25.36
原油価格(\$/bbl)	107.87	73.97	33.90
平均気温(°C)	19.5	19.2	0.3

(2)都市ガス・電力販売量

		2022年度3Q	2021年度3Q	増減	%	
都市ガス	家庭用	百万m ³	1,834	1,906	△72	△3.8
	業務用	百万m ³	1,579	1,545	34	2.2
	工業用	百万m ³	4,509	4,532	△23	△0.5
	計	百万m ³	6,088	6,076	12	0.2
	他事業者向け供給	百万m ³	1,162	1,149	13	1.2
合計	百万m ³	9,084	9,131	△47	△0.5	

家庭用：巣ごもり需要剥落影響
業務用：新型コロナウイルス影響等による需要減から回復傾向
工業用：需要家稼働減
他事業者向け供給：供給先稼働増

小売お客さま件数(千件)：8,688 (対前期△45) ※小売お客さま件数は、ガス小売事業者としてのガス料金請求対象件数。

取付メーター数(千件)：12,289 (対前期+127) ※取付メーター数は、導管事業者としてのメーター取付数。

		2022年度3Q	2021年度3Q	増減	%	
電力	小売	百万kWh	8,202	7,687	515	6.7
	卸他	百万kWh	17,202	12,339	4,863	39.4
	合計	百万kWh	25,404	20,025	5,379	26.9

小売：件数増による販売量増

卸他：卸先の需要増

小売お客さま件数(千件)：3,314 (対前期+380) ※小売お客さま件数は、電力小売事業者としての電気料金請求対象件数。

(3)セグメント別売上高・セグメント利益

(単位:億円)

	売上高				セグメント利益			
	2022年度3Q	2021年度3Q	増減	%	2022年度3Q	2021年度3Q	増減	%
エネルギー・ソリューション	21,114	—	—	—	2,066	—	—	—
ガス(ネットワーク除く)	12,759	—	—	—	1,721	—	—	—
電力	5,993	3,083	2,910	94.3	167	117	50	42.1
ネットワーク	2,442	—	—	—	△191	—	—	—
(概算値)エネ・ソリュ+ネットワーク	23,556	13,448	10,108	75.2	1,875	563	1,312	232.9
海外	1,281	624	657	105.3	639	204	435	212.7
都市ビジネス	462	433	29	6.7	129	127	2	2.3
調整額	△2,299	△472	△1,827	—	△226	△316	90	—
連結	23,001	14,032	8,969	63.9	2,418	578	1,840	317.9

(注)・「ガス(ネットワーク除く)」には都市ガス(ネットワーク除く)・LNG販売・トレーディングを含みます。
・セグメント別の売上高には事業間の内部取引を含みます。
・「エネルギー・ソリューション」には、都市ガス、液化石油ガス、産業ガス、LNG販売、トレーディング、電力、エネルギーソリューション、ガス器具、建設、クレジット、情報処理サービス、船舶等を含みます。
・セグメント利益の調整額の主なものは、各セグメントに配分していない全社費用です。

(4)主要計数

(単位:億円、%)

	2022年度3Q	2021年度3Q	増減		2022年度3Q	2021年度3Q	増減	ハイブリッド社債・ローン考慮後 ※
設備投資	1,420	1,326	94	D/Eレシオ	0.94	0.98	△0.04	0.88
営業キャッシュ・フロー	3,216	1,943	1,273	ROA	4.9	1.6	3.3	※発行済みハイブリッド社債・ローンの資本性50%を調整
有利子負債	13,667	12,205	1,462	ROE	12.4	3.9	8.5	

(注)有利子負債、D/Eレシオは2022年3月末との比較

2.2022年度 通期見通し <対前回(10.27)見通し>

(1)通期見通しのポイント

対前回 増収増益 対前期 増収増益(純利益ベース)

都市ガス販売量	△93百万m ³	：巣ごもり需要剥落影響等による家庭用需要減等
電力販売量	+407百万kWh	：卸向け販売量増等
売上高	+1,040億円	：原料費調整に伴う単価増などによるガス事業の売上増、販売量増・販売単価増などによる電力事業の売上増等
営業費用	△770億円	：販売量減・単価減などによるガス事業の原材料費減等
営業利益	+1,810億円	：ガス事業・電力事業の利益増等

※4Qの経済フレーム(原油価格100\$/bbl→90\$/bbl、為替レート140円/\$)

(注)2022年4月1日に当社のガス導管事業等を当社の100%子会社である東京ガスネットワーク株式会社に承継させる吸収分割を行ったことにより、当社はガス事業会計規則に定める一般ガス導管事業者には該当しなくなったため、検針日基準から引渡基準へ会計方針を変更しており、2021年度に係る各数値は遡及適用後の数値を記載しています。

(単位:億円)

	今回	前回	増減	%	2021年度	増減	%
都市ガス販売量(百万m ³ , 45MJ)	12,704	12,797	△93	△0.7	13,146	△442	△3.4
電力販売量(百万kWh)	34,849	34,442	407	1.2	28,288	6,561	23.2
売上高	33,770	32,730	1,040	3.2	21,548	12,222	56.7
営業費用	30,460	31,230	△770	△2.5	20,273	10,187	50.2
営業利益	3,310	1,500	1,810	120.7	1,275	2,035	159.6
経常利益	3,250	1,600	1,650	103.1	1,364	1,886	138.1
親会社株主に帰属する当期純利益	2,360	1,180	1,180	100.0	957	1,403	146.6

経済フレームほか	今回	前回	増減	2021年度	増減
為替レート(¥/\$)	137.38	137.02	0.36	112.39	24.99
原油価格(\$/bbl)	103.40	105.96	△2.56	77.15	26.25
平均気温(°C)	16.5	16.3	0.2	16.2	0.3
スライド差(億円)	1,598	372	1,226	△6	1,604

為替・原油変動の都市ガス粗利影響感度(4Q)

(単位:億円)

	売上高	原料	営業利益
円・ドルレートが¥1/\$円安	4	15	△11
原油価格JCCが\$1/bbl上昇	0	0	0